

# 岩手ブランドの懸け橋に

## アグリフードヒルズ協 北東北・食文化大使任命

盛岡市のアグリフードヒルズ協会(重石桂司理事長)と、東京都の日本フードアナリスト協会(横井裕之理事長)は「北東北・食文化大使」を創設し、5人の女性を任命した。東京都の鶴居由紀衣さん、萬洋子さん、原アンナさん、吉村優さん、松田陽菜子さん。岩手の食材のブランド化に取り組み両協会が、食文化に造詣の深い5人を任命した。4月末は盛岡市でいわたてブランド化フォーラムが開催され、大使を交えて関係者が意見交換。岩手の山海の幸を全国、世界に発信するよう申し合わせた。



大使に任命された鶴居さん、萬さん、原さん、吉村さん、松田さん(左から)

フォーラムでは5人に任命証を手渡し、北東北にヨーロッパ的な風土を見いだし、豊かな食材を活用して、新しい食文化を開拓するため、メッセージを託した。

鶴居さんは「フードアナリスト協会評議員委員、ウイワイ代表、公益財団法人のちぎぎ金代表理事。国際イメージコンサルタント認定資格を持ち、衣食住の文化を提言している。『盛岡市は中心部から車に15分乗れば別天地。丘陵はヨーロッパのスイスやドイツの牧場の風景によく似ている』と話し、岩手の環境を評価する。

萬さんは「級フードアナリスト。マナー、作法、和装文化のコンサルタントで、ライターやテレビコメンテーター

として活躍。食品の通販や広島のお好み焼きポータルサイトを運営する。『盛岡の豊かな食材を、ワインや日本酒とのマリージュを楽しむたい』と発想する。

原さんは「フードアナリスト協会主催の2016年食のなでしこグランプリ。『盛岡の食材の濃厚さに驚いた。欧米料理のソースによく似合いそう』と感動する。準グランプリの吉村さんは『盛岡は文学や絵画、音楽などの芸術が盛んで文化の香りがする街。歴史に育まれた食文化を発信していきたい』。食のなでしこの松田さんは『生産者さんのお話を聞いて真剣さと情熱に驚き、岩手県の食材のファンになった』と話す。

横井理事長は食の情報コンテンツとプロモーションを手掛けるアテナイオスを5年設立し、社長としてフードアナリストの育成に取り組んだ。日本の食文化と食メディアの新しい可能性を開拓している。

5人を大使に任命

街は来れば来るほど去りがたく、人情も豊か。世界有数の食材と食文化のあるところであり、日本人の故郷の原風景だ。多くの人が岩手県、北東北、盛岡のファンになってもらい、北東北のヨーロッパ的で風土豊かな食文化を楽しんでもらいたい。フードアナリスト協会として最高の食材である盛岡を中心とした北東北の地域食材、食文化のブランドディングを応援していきたい』と話している。

重石理事長は「一人ひとりが中央で大使、活躍している方で、岩手、北東北の食材の魅力を大いに引き出していたらきたい」と期待している。